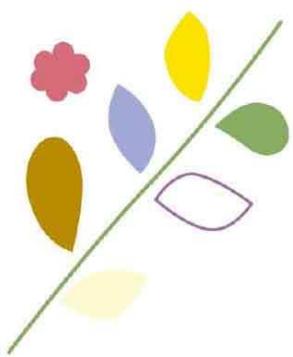


マンモグラフィー (乳腺撮影)

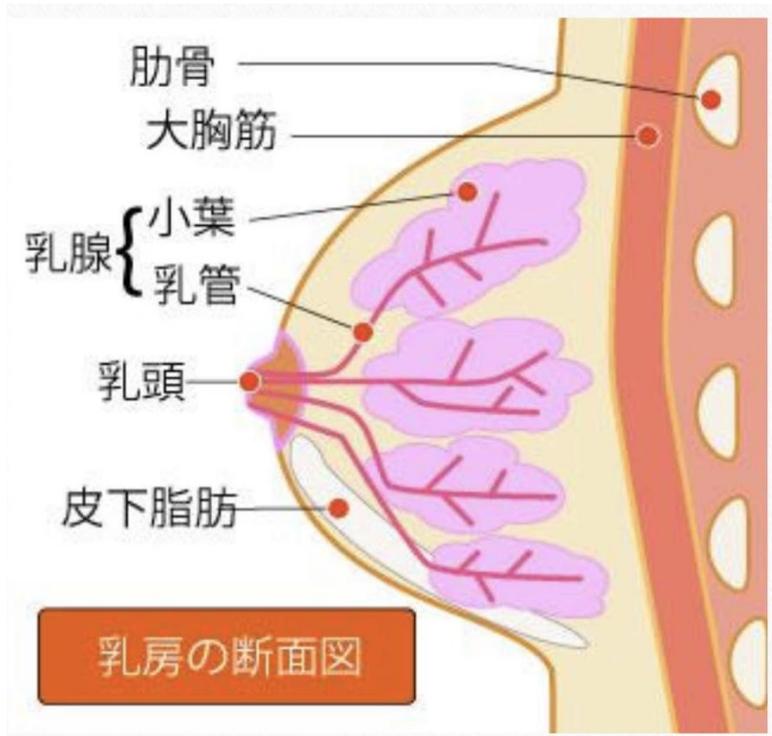




乳腺撮影 (マンモグラフィ)とは

- 乳腺撮影(マンモグラフィ)は専用のX線装置を用いて撮影を行います
- 乳房を引き出して圧迫し、乳腺組織を薄く伸ばすことで、乳腺内の病変が見つけやすくなり、さらに撮影に必要なX線量を低減できます
- 圧迫する際に痛みを伴う場合がありますが、痛みの感じ方には個人差があります

なぜ圧迫する必要があるのか

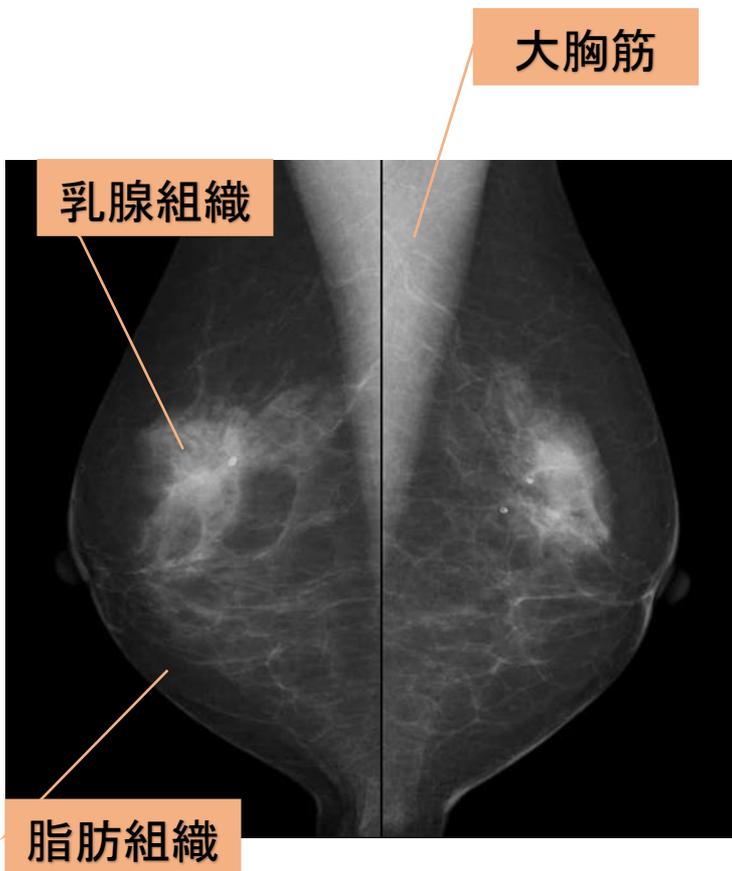
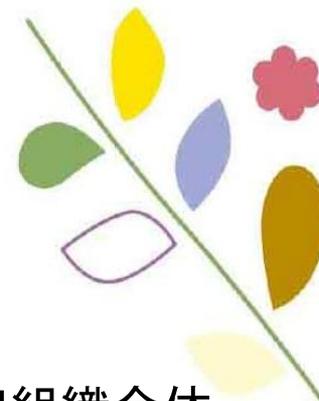


- 乳腺は乳頭から放射線状に広がっています
- 乳腺が重なっていると、腫瘍などの病変が写りにくくなってしまうため、なるべく薄く圧迫する必要があります
- 圧迫することで被ばく線量を減らす効果もあります

図:フリーメディカルイラスト図鑑

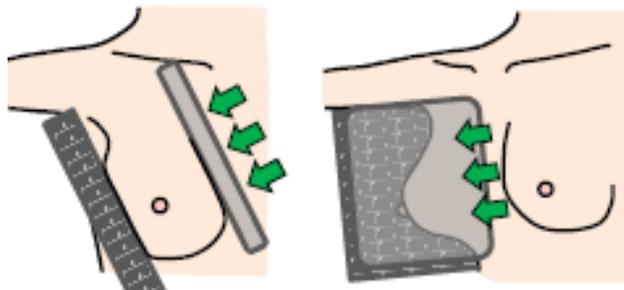


実際の画像



内外斜位方向撮影

- 出来るだけ乳房を引き出して、乳腺組織全体を撮影します
乳房の引き出しが足りないと、胸壁側に病変があった場合、マンモグラフィ検査を行っても発見することが出来ません
- 乳腺組織は白く写ります
乳腺が発達しているとより白く写り、乳腺が退縮して脂肪組織に置き換わっている場合、全体的に黒っぽく写ります





超音波検査との比較

	マンモグラフィ	エコー(超音波)検査
利点	<ul style="list-style-type: none">・腫瘍、微小な石灰化を発見できる・乳腺の構築の乱れを発見できる・以前の画像との比較が容易	<ul style="list-style-type: none">・痛みがない・乳腺が発達していても腫瘍を見つけやすい・被ばくがない
欠点	<ul style="list-style-type: none">・微量だが被ばくがある・乳腺が発達している若い女性は腫瘍が乳腺に隠れて見えにくい	<ul style="list-style-type: none">・石灰化は写りにくい・操作中に判断するため、検査技師や医師の能力に依存する

※それぞれに利点・欠点があるので、検査の併用や年齢にあった検査を選択することが重要です



検査の流れ



氏名確認

ご本人確認のためお名前をお伺いしています。
ご協力 お願い致します

お着替え

上半身だけ検査着にお着替えをしていただきます
撮影に 支障がありますので、眼鏡・ネックレス・ピアスなどは外し、肩にかかると髪は束ねていただきます
パウダーを含む制汗剤やボディーパウダー、ラメを含むボディークリームは乳がんのサインとなる石灰化と似て写ることがありますのでふき取りにご協力ください

撮影

乳房を片方ずつ撮影台にのせ乳房全体が写るよう出来るだけ引き出し圧迫板で圧迫し撮影します(圧迫している時間は十数秒です)

※当院では女性技師が撮影を行っています

検査時間は10～20分程度です

撮影装置



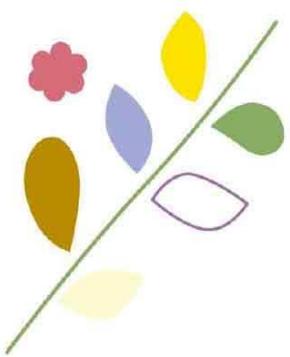
当院では、通常のマンモグラフィの撮影の他、トモシンセシスという一回の撮影の中で角度を変えながら機械が動き複数の写真を撮影することができます

これにより、マンモグラフィよりもさらに細かな病変や乳腺にうもれている病変も描出することが可能になります

撮影方法は通常のマンモグラフィとほぼ変わりません
撮影中は機械が動きながら複数回撮影を行いますので、撮影時間が5秒程度長くなります



GE社製 Senographe Essential



マンモトーム生検



- マンモトーム生検とは、乳腺組織内の石灰化をマンモグラフィガイド下で採取する検査です。
- 採取した組織を病理検査にかけ、診断を行います。
マンモグラフィと同様に板で乳腺を圧迫し撮影を行い、石灰化の位置を確認しながら組織を採取します。
- 3mm程度の針を用いて採取を行うため、傷跡が目立ちにくく、入院することなく外来で検査を行えます。
- 検査時間は30分～1時間程度です